

研究テーマ D. T. M (デスク・トップ・ミュージック)

1. はじめに

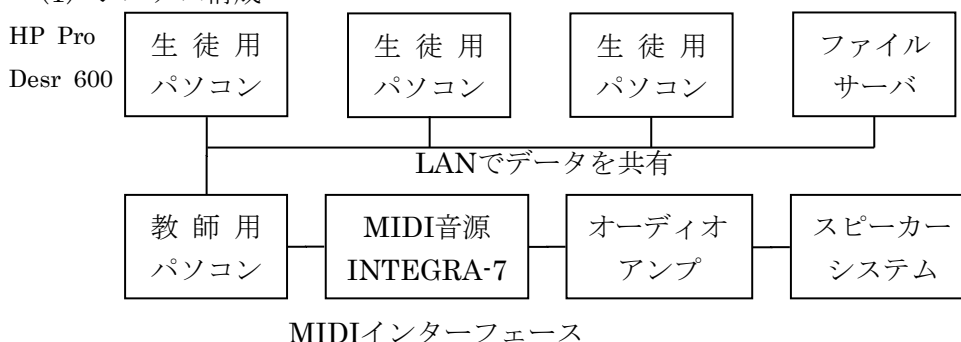
D T Mとは、Desk Top Music(デスク・トップ・ミュージック)のことで、直訳すると机上での音楽演奏。つまり、本物の楽器を使わずに機械で音を作り出して演奏をさせる。画面内の楽譜に音符を置いていけば、コンピュータが自動で演奏をしてくれるため、たとえ楽器が弾けなくても作曲をすることが可能である。最近の楽曲はこうして作られているのが多いので研究の課題とした。

2. 研究内容

日本発祥で世界共通のMIDI(ミディ)(Musical Instrument Digital Interface)データをコンピュータで作成して、MIDI音源により音を出力する。

3. 使用した機器、ソフトウェア等

(1) システム構成



(2) 使用ソフトウェア

Singer Song Writer Lite 9.5

4. 実施方法

Singer Song Writer Lite 9.5 を使用するためにサンプル曲を題材に具体的な入力操作方法を練習した。

Step 1

曲づくり前の設定から、メロディの入力(音符の張り付けや、数値での入力方法の理解)、コードの入力、伴奏の作成(アレンジデータの張り付け)をとおして、サンプル曲「ひとりゆらり」を作成する。

Step 2

演奏に抑揚(音の強弱)をつける。

Step 3

オーディオデータの入力。

5. 成果

(1) 合同作品

有名な楽曲の吹奏楽譜を購入し、各パートのアレンジデータを、必要なトラック分
入力、合成して演奏させた。

今年度の合同作品

「得賞歌」演奏時間：01分40秒

「君が代」演奏時間：40秒

各パートの詳細は、次のページを参照してください。

参考楽譜

出版社：株式会社ミュージックエイト

シリーズ：FLX フレックス・バンド（五声部+打楽器）

FLX20 得賞歌・君が代

出版日：2018/01/24

販売価格：3,850円（税込）

U R L：<https://www.music8.com/products/detail40988.php>

得賞歌

G. F. Handel 作曲
山岸 裕 編曲
R02. 06. 29～R02. 09. 28

君が代

国 歌
山岸 裕 編曲
R02. 09. 14～R02. 10. 26

T r	P a r t	PCcc	※Pan	Key	N a m e
1					
2	1st・2nd Flute	74-0	32	0	林 玖羽
3	Oboe	69-0	88	0	峯畑 大愛
4	Bassoon	71-0	104	0	富永虎次朗
5	1st・2nd・3rd Clarinet in B \flat	72-0	40	-2	峯畑 大愛
6	Soprano Saxophone in B \flat	65-0	74	-2	林 玖羽
7	1st・2nd Alto Saxophone in E \flat	66-0	80	3	富永虎次朗
8	Tenor Saxophone in B \flat	67-0	96	-2	林 玖羽
9	Baritone Saxophone in E \flat	68-0	112	3	林 玖羽
1 0	Drum Set	Dset	64	0	林 玖羽
1 1	1st・2nd・3rd Cornet in B \flat	57-0	48	-2	峯畑 大愛
1 2	1st・2nd・3rd・4th Horn in F	61-0	72	-7	富永虎次朗
1 3	1st・2nd Trombone	58-0	56	0	峯畑 大愛
1 4	Euphonium(ト)	59-0	120	-2	林 玖羽
1 5	Basses	48-0	127	0	峯畑 大愛

※ Pan(パン)とは

音の左右の定位のこと。正しくはパンポットという。

音楽をステレオで聴く時に、バランスつまみを調整することで、音像の定位をコントロールできるようになっている

範囲は0～127までで、64がちょうどセンターにあたる。

また、機器・ソフトによっては、センターが0で表され、左寄りがマイナス、右寄りがプラスの数値で表示されているものもある。

(2) 個人作品

「曲名」アーティスト名	作成者
「粉雪」レミオロメン	I318 富 永 虎次朗
「デデデ大王&メタナイト・タッグメドレー」	I324 林 玖 羽
「Greatest Guitar Medley」布袋寅泰	I327 峯 畑 大 愛

6. 感想

以前から音楽を入力してみたいという気持ちがあったので、DTMを選択しました。操作に慣れるまでに時間がかかりましたが、良い作品を作ることができたと思う。

初めは音楽のことを全然知らなくて、多少知っていたのは音符の読み方くらいでした。しかし、そんな僕でもできたのは、心強い仲間と優しく教えてくださった先生のおかげです。課題研究DTMをしてよかったと思った。

課題研究を始める前は、より本物の楽器に近い音になるようにしようと思っていましたが、どうしても、デジタルで自然になめらかに音を繋ぐのは難しかった。将来の夢に一步近づくよい経験になった。